

**第39回海洋開発シンポジウム（2014）ならびに
「土木学会論文集B3（海洋開発）」特集号（Vol. 70, No. 2）の論文募集のご案内**

海洋開発委員会では、最新の研究及び調査や施工に関する技術報告の場として土木学会論文集B3を発刊するとともに特集号掲載論文の発表ならびに討議を行う海洋開発シンポジウムを開催いたしております。多くの研究者、技術者が一堂に会して有益な情報を提供し、活発な討論を行うことによりこの分野における土木工学の発展に寄与しております。

つきましては、2014年度は下記のように海洋開発シンポジウムを開催するとともに土木学会論文集（B3）特集号への投稿論文を募集致します。土木学会論文集（B3）では、海洋開発に関わる最新の研究成果の他、実務者・現場からの有用性の高い報告や将来の発展に寄与するような新規性のある技術も重視しております。さらに、海洋開発に対する認識の変化に対応して時宜を得た話題を取り上げた特別セッションも設定しております。一般論文はもちろんのこと、特別セッションの論文についてもふるって講演応募くださいますようお願いいたします。

2014年1月15日

社団法人土木学会 海洋開発委員会

第39回海洋開発シンポジウム（2014）の開催概要

1. 主 催

土木学会（担当：海洋開発委員会）

2. 期 日

2014年6月26日（木）～6月27日（金）

3. 場 所

新潟県新潟市 朱鷺メッセ

（〒950-0078 新潟市中央区万代島 6 番 1 号）

ホームページ：<http://www.tokimesse.com/>

4. 参 加 費

無料

5. 講 演 集

CD媒体での事前および当日販売

予価2,000円（消費税・送料込）

6. 開催地案内

日本海と信濃川が会う水の都、そして豊かな自然と田園に恵まれた新潟市での開催になります。新潟市は17世紀半ばに開かれた西廻り航路により北前船の寄港地となり、日本海側きつての湊町として栄えました。今も湊町の佇まいを残し、海の幸、山の幸に恵まれた新潟で、学术交流と湊町文化ただよ柳都の初夏の風情をお楽しみください。

1. 募集課題

（1）特別セッション指定課題

S1. 「洋上風力発電の実用化へ向けて」

中長期的な温室効果ガスの排出削減を原子力発電だけに頼らずに実施するためには、再生可能エネルギーの導入を強力に推進しなければなりません。陸域が狭い中で広大な排他的経済水域を有する我が国において、導入ポテンシャルが大きく実用化が最も近づいている海洋再生可能エネルギーが、洋上風力発電です。

本セッションは、我が国沿岸のさまざまな海域で実施されている洋上風力発電に関する実証的な研究のレビューを行うとともに、今後取り組むべき課題等を抽出し検討するものです。

S2. 「東日本大震災による海洋環境の変化」

東日本大震災によって、東北地方をはじめとする沿岸においては海洋環境全般に大きな変化が生じています。例えば、

- 1) 津波による底質の移動や大規模な地形変化に伴う水底質環境や生態系の変化
- 2) 瓦礫の流入・堆積状況の実態や水底質環境への影響
- 3) 海岸部における地盤沈下状況やそれに伴う沿岸環境変化

などが挙げられます。

本セッションは、こうした震災による海洋環境の変化に関して、震災時から現在にいたるまでの状況と、震災復興の観点から今後求められる環境改善の方法やその技術について議論を行うことを目的とします。

（2）一般課題

G1. 海洋における政策・事業・総合的管理

キーワード：海洋の総合的管理；海洋・港湾・海岸の計画・政策・事業・管理；
物流（港湾・海上輸送）など

G2. 海洋施設の計画・設計

キーワード：風況・波浪観測，風況予測，波浪推算，極値統計，気候変動；波浪変形，海浜流；耐波設計（流体力，波力・越波），波浪制御構造物；津波波源モデル，津波の伝播；耐津波設計，耐津波構造物；高潮，長周期波，副振動，潮位変動；海浜変形，漂砂，シルテーション，局所洗掘，飛砂；浮体，船舶，係留施設，係留装置；構造力学（鋼・コンクリートなど），耐震（構造）；土質・基礎，地

下水，遮水，耐震（地盤）；連成問題（地盤－流体－構造など）；
確率論的設計（信頼性設計，性能設計など）など

G3. 海洋施設の施工・維持管理

キーワード：施工計画・施工方法，施工技術；維持管理手法，維持管理技術；
作業船・機械・装置；材料・リサイクル，材料力学など

G4. 海洋の調査・技術開発

キーワード：調査・計測・モニタリングの手法；新技術，イノベーション；実
験技術（実験水槽，新型計測機器など）など

G5. 海洋環境の保全・再生

キーワード：自然再生事業，順応的管理，ミチゲーション；環境影響評価；海
域の流動，密度流，物質拡散；海域の水質・底質；海域の生態系
（海洋，浅場，藻場，干潟，植生）；地球温暖化，温室効果ガス，
ブルーカーボン；油汚染，漂流ゴミ，漂着物，廃棄物，放射性物
質など

G6. 海洋の利用

キーワード：鉱物資源，海洋エネルギー，海水資源（淡水化，深層水）；海洋生
物資源（水産）；海洋空間・離島・氷海域の利用；深海技術；景観，
アメニティ，作業環境，レクリエーション；海洋産業，海洋教育
など

G7. 海洋における防災

キーワード：自然災害（津波，高潮・高波，地震など）の事例（被害調査，再
現計算，再現実験など）；リスクアセスメント，リスクマネジメン
ト，防災・減災技術，安全技術など

2. 申し込み要件

- (1) 論文は原則として未発表のものに限り，二重投稿は認めません。
- (2) 1編あたりの著者数は，最大8名とします。また，原則として，著者には土木学会員が1名以上含まれていなければなりません。
- (3) 論文要旨の受付終了以降は，原則として「論文題目」，「著者名」，「著者の序列」の変更はできません。なお，予定発表者の変更は止むを得ない場合に限り，共著者までを範囲とし認めます。
- (4) 使用できる言語は，日本語または英語とし，論文要旨および本論文は，同じ言語で記述しなければなりません。ただし，英語を使用できるのは，第一著者が日本国籍でない方の場合に限ります。
- (5) 採択された論文は，同一年度の海洋開発シンポジウムにおいて，講演することが義務付

けられます。また、講演者が重複する論文の申し込みは受理いたしません。

- (6) 講演集代を含む掲載料は1編につき25,000円(予定, 消費税・送料込)とし、シンポジウム終了後に請求致します。

3. 論文の申し込みからJ-STAGE掲載までの流れ

- ①論文申し込み(論文要旨) 提出期限: 2月6日(木) 17時【必着】
- ②第1次審査
- ③第1次審査結果通知(3月3日ごろを予定)
- ④論文原稿提出(本論文) 提出期限: 4月3日(木) 17時【必着】
- ⑤第2次審査
- ⑥第2次審査結果通知(4月25日ごろを予定, 修正事項がない場合⑧へ進みます)
- ⑦修正論文提出(第2次審査結果通知の際に提出期限をご連絡いたします)
- ⑧最終原稿提出 提出期限: 5月9日(金) 17時

原稿提出方法は、採択結果通知時にご連絡いたします。

- ⑨論文の口頭発表・討議(於: 海洋開発シンポジウム)

開催日: 6月26日(木), 6月27日(金)

※シンポジウム講演集(電子媒体)の申し込み(WEB受付: 5月中旬)

- ⑩J-STAGEへの掲載

採択された論文は、「土木学会論文集B3(海洋開発), Vol. 70, No. 2」として, 2014年8月(予定)にJ-STAGEに掲載予定です。

4. 申込方法

海洋開発委員会の電子投稿システム (<http://journal.ce-ocean.jp>) を使って、論文要旨を電子投稿して申し込みます。論文要旨は、図表等も含めA4用紙2枚以内(厳守)に、論文題目、募集課題分類および論文要旨を記述し、電子投稿システムに記載されている論文要旨投稿要領にしたがってお申し込み下さい。e-mail、郵送、FAX、持参については受け付けることができませんのでご注意下さい。

なお、論文要旨には、下記の事項をご記入ください。

- (A) 募集課題の分類(前述1. S1, S2, G1~G7のいずれか)
- (B) 論文題目(著者名と所属など著者を特定できる情報は絶対に記入しないで下さい)
- (C) 論文要旨

論文要旨には「研究(調査、工事)の目的」、「研究(調査、工事)の内容」、「主要な結論」を項目別に明記して下さい。論文要旨は、和文:1500文字以下、英文:600単語以下でとりまとめ、主要な結論に至る図表等を必ず貼付して下さい。また、論文要旨には、著者名など著者を特定できるような情報は記入しないでください。作成方法の詳細については、電子投稿システムHPにあるサンプルファイルを参照ください。

5. その他

- (1) 論文要旨と本論文を査読基準に従って査読の上、海洋開発委員会において審査を行いますので、「採否」についてはご一任下さい。
- (2) 「土木学会論文集B3(海洋開発)」特集号(Vol.70 No.2)に採択された論文は、事務局でヘッダー及びページ番号を追加し、J-STAGE上で電子発行される予定です。紙媒体の発行は行いません。
- (3) 「海洋開発シンポジウム」開催時には、J-STAGEでの電子発行が行われないため、ヘッダ・ページ番号の記載のない電子媒体「海洋開発シンポジウム講演集」を発行します。講演集代は論文の掲載料に含まれます。ただし、講演集は、正式発行される刊行物ではありませんので、参照・引用文献としての利用はできません。J-STAGEに掲載される論文を利用してください。
- (4) 特別セッションは、セッションオーガナイザーのコンセプトによりセッション内の採択論文を決定します。セッションのコンセプトに適合しなかった論文については、一般セッションの論文として採否を判定します。
- (5) シンポジウムでの発表は日本語を基本とし、論文が英語で記述されている場合のみ英語での発表を可とします。
- (6) シンポジウムではご発表後に論文に対する討議の時間を設けます。

以上